

2017年10月13日（金）中央教育審議会将来構想部会制度・教育改革ワーキンググループ

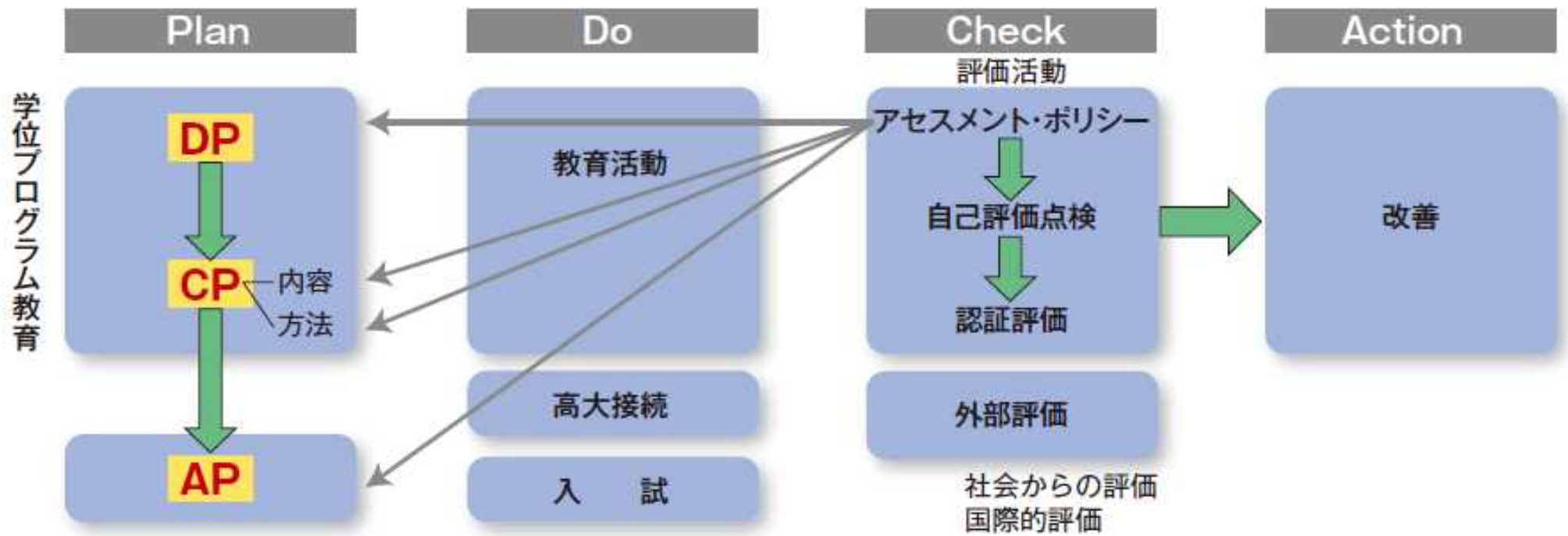
# 3つのポリシーの実質化と 教育の質保証について

関西国際大学

学長 濱名 篤

# 高大接続答申の中の3つのポリシー+a

- 3つのポリシーの一体的な作成を法令上位位置づけることがはっきり明記された（答申20頁）
- 大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）を確立した上で、学生の学修履歴の記録や自己評価のためのシステムの開発、アセスメント・テストや学修行動調査等の具体的な学修成果の把握・評価方法の開発・実践、これらに基づく厳格な成績評価や卒業認定等を進めることが重要である（答申21頁）。



出典: 濱名 リクルート カレッジマネジメント198 May—Jun.2016

# 学修成果の重層的・多元的評価の事例 ～アメリカ・ミネソタ州カールトン大学～

# ミネソタ州カールトン大学の 6つのLearning Outcome

- L01：世界の人々、芸術、環境、文学、科学、制度（何を学ぶかを学ぶこと）について継続的な学びに必要な知識を獲得したことを表す（demonstrate）ことができる
- L02：「学習領域についてかなりの(substantial)知識とその領域の関係した研究または方法論を示すことができる
- L03：Evidenceに立脚した分析能力を身につける
- L04：問題を公式化し解決することができる
- L05：効果的にコミュニケーションができ議論することができる
- L06：選択した分野で専門分野または学際的な研究、芸術的または生産的独立職に就くことができる

それぞれの目標ごとに、多元的・重層的な評価基準と評価方法が設定

# Carleton College Assessment Plan

## Learning Outcome 1:

世界の人々、芸術、環境、文学、科学、制度（何を学ぶかを学ぶこと）について継続的な学びに必要な知識を獲得したことを表す（demonstrate）ことができる

### 評価evidence

- ① Research Practice Survey (直接, 全国基準)
- ② 教職員がLO1ルーブリックを用いてカリキュラムについての経験について、学生にフォーカスグループインタビューを実施 (間接, 独自基準)
- ③ Academic Experience Survey (間接, Galotti)
- ④ CARS support survey (間接, 独自基準)
- ⑤ 学生調査データ (間接, 全国基準)
- ⑥ 成績分析 (間接, 独自基準)

# L03:Evidenceに立脚した分析能力を身につける

- ① QuIRK portfolio評価 (直接, 独自基準)
- ② アドバイザーによるL03 ルーブリックを用いての学修成果物の評価 (直接, 独自基準)
- ③ 教職員が初年次セミナーを通じてL03ルーブリックを用いて評価 (直接, 独自基準)
- ④ 教職員がL03ルーブリックを用いて学生の正規教育外(co-curricular)経験についてグループフォーカスインタビューを行い評価 (間接, 独自基準)
- ⑤ 図書館職員情報とliteracy portfolio 評価 (直接, 独自基準)
- ⑥ Research Practices Survey (直接, 全国基準)
- ⑦ Collegiate Learning Assessment (CLAテスト、直接, 全国基準)
- ⑧ 学生調査データ (間接, 全国基準)

# L04:問題を公式化し解決することができる

## 評価方法

- ①アドバイザーがL04ルーブリックを用いて学修成果物を評価（直接, 独自基準）
- ②教職員がL04ルーブリックを用いて正規教育外(co-curricular)経験についてグループフォーカスインタビューを行い評価（間接, 独自基準）
- ③Collegiate Learning Assessment (CLAテスト、直接, 全国基準)
- ④学生調査データ（間接, 全国基準）



# 関西国際大学におけるアセスメント ポリシーに基づく評価の実践

# 関西国際大学の基本情報

## 尼崎キャンパス（兵庫県尼崎市）

### 教育学部

■ 教育福祉学科 こども学専攻／福祉学専攻

■ 英語教育学科／英語コミュニケーション学科

※2017年度より英語コミュニケーション学科に名称変更

### 人間科学部

■ 経営学科

## 三木キャンパス（兵庫県三木市）

### 人間科学部

■ 経営学科

■ 人間心理学科

### 保健医療学部

■ 看護学科

学生数：学部2,002名  
大学院 31名

専任教員数：106人

（2017年5月1日現在）

## 大学院

● 人間行動学研究科

人間行動学専攻（修士課程）、臨床教育学専攻（修士課程）

● 看護学研究科 看護学専攻（修士課程）

# KUISのディプロマポリシーと評価時期



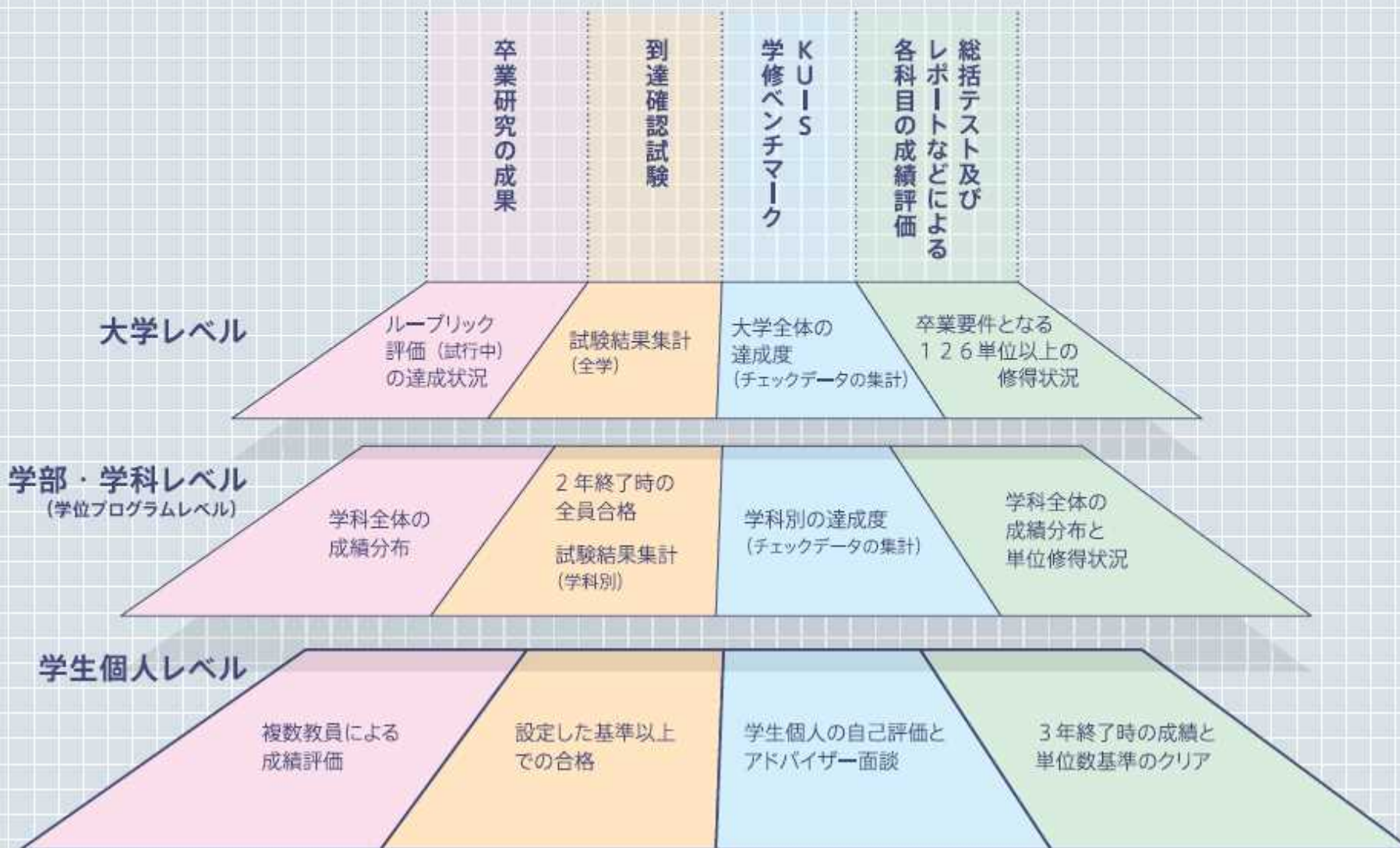
# KUIS学修ベンチマーク(大学としての共通到達目標)項目

## 《KUIS学修ベンチマーク(大項目・中項目)》

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明
自律できる人間になる	自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の行動には責任が伴うことを自覚できる	知的好奇心	新しい知識や技能、社会におけるさまざまな現象や問題を学ぶことに、自ら関心や意欲をもつことができる
		自律性	自分の行動には責任が伴うことを自覚し、自らを律しつつ設定した目標の実現に向けて積極的に取り組み、最後までやりとげることができる
社会に貢献できる人間になる	社会の決まりごとを大切に考え、社会や他者のために勇気をもって行動し、貢献することができる	規範遵守	複数の人々と暮らす社会の決まりごとを尊重し、その背景や意義を理解して、協動的に行動することができる
		社会的能動性	自分の役割や責任を理解し、他者との積極的な協働や交流を通して、社会のために行動することができる
心豊かな世界市民になる	多様な世界の人々や自分たちの社会について理解を深め、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界市民として行動できる	多様性理解	自分や、自分と同じ社会的・文化的背景を持つ人たち、異なる社会的・文化的背景を持つ人たちがいることを理解し、多様な世界や社会を大切に考え、柔軟に行動することができる
		共感的態度	他者と接するときに、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って考え、共感を示すことができる
問題解決能力を身につける	状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる	情報収集・活用力	必要な情報や信頼できる情報をさまざまな方法を使って集め、解決の視点から必要な情報を取捨選択し、整理・保存しながら活用することができる
		問題発見力	現状から何が問題であるかを発見し、その解決に向けた課題を考えることができる
		論理的思考/判断力	偏った判断をすることなく、その時・その場の状況(TPO)に応じて判断し、論理的に考えることができる
		計画・実行力	問題解決に向けて見通しのある計画を立て、検証及び修正しながら実行することができる
コミュニケーション能力を身につける	社会生活を営む上で、他人の思いや考えを受け止め、理解するとともに、自分の思いや考えを的確に表現し、意見を交わすことができる	自己表現力	言語的及び非言語的な表現方法を工夫しながら、自分の思いや考えをわかりやすく効果的に表すことができる
		意見交換・調整力	他者の発言を傾聴し、文章を読解して、その内容の要点をとらえ、自分の疑問や主張をまとめて、他者と意見の交換や調整をすることができる

## ■ データを活用した三層構造のアセスメント

成績やKUIS学修ベンチマークの達成度、到達確認試験、卒業研究の成果などのデータを学生個人のアセスメントに活用しているのはもちろん、学科別、大学全体の達成状況の把握にも活用し、教育改善に役立っています。



# 体系的で一貫した学生評価システム

## ①知識の獲得

G P A と到達確認試験で確認を行い、自らの知識習得度を自己管理する。  
前学期の成績により履修単位上限が異なる。

## ②汎用的能力の獲得

各学期末にベンチマークを自己評価し、その根拠・理由も記述し、それらの学生評価をもとに教員が面談し、他者評価を交えた評価を蓄積する。

### ルーブリックの活用

- テストや調査の活用だけでなく、レポート、発表、活動などの評価に使用する。
- 複数の授業で使用するため、学生自身の自己評価能力が向上する。
- 何ができていて、何がこれからの課題かを自覚する  
⇒学期末のリフレクションデイで、レポート、答案も返却



最終的に何ができるようになったかを自己説明できることが必要

# 学修成果の評価方法の分類

## (大学、学部学科フェーズ)

		大学の学び	
		専門的	汎用的
評価方法	直接的	卒業論文 教員採用試験合格率、看護師・保育士等の国家試験合格状況など	ポートフォリオ 言語運用力テスト 数理分析力テスト (日本語運用能力テスト)
	間接的	卒業、単位修得状況など	適応調査、大学IRコンソーシアム学生調査 (学生生活意識・実態調査)

(1) 次の設問を読んで、あてはまるものに○をつけてください

		ほとんどあてはまる	あてはまる	ほとんどあてはまらない	あてはまらない		
Q. 1	新しい知識や技能を学ぶことに関心がある	5	4	3	2	1	①
Q. 2	新しい「学び」に意欲を持って取り組める	5	4	3	2	1	
Q. 3	自分の言動や発言、役割や立場に責任があることを自覚している	5	4	3	2	1	②
Q. 4	自分の責任を感じることは最後まで遂行できる	5	4	3	2	1	
Q. 5	さまざまな場面で自分らしい目標を立てることができる	5	4	3	2	1	③
Q. 6	目標の実現に向けて、自分を律して、自主的・主体的に行動することができる	5	4	3	2	1	
Q. 7	社会のルールや、学校の校則を守ることは大切だと思う	5	4	3	2	1	④
Q. 8	まわりの人やルールに、積極的に協調することができる	5	4	3	2	1	
Q. 9	個人の権利を主張するためには、社会人としての義務を果たすべきだと思う	5	4	3	2	1	⑤
Q. 10	普段から嘘のない行動をしたり、人間関係を大切にしている	5	4	3	2	1	
Q. 11	社会や集団のために、一緒に活動することの大切さを理解している	5	4	3	2	1	⑥
Q. 12	社会や集団のために、進んで行動することができる	5	4	3	2	1	
Q. 13	異なる文化や言語、いろんな考え方や行動をする人たちがいることを理解している	5	4	3	2	1	⑦
Q. 14	国際的な視点でものごとを見たり、環境保護に関心を持って行動できる	5	4	3	2	1	
Q. 15	相手の立場や置かれている状況を敏感に感じることができる	5	4	3	2	1	⑧
Q. 16	困ったときはお互い様と思って、行動することができる	5	4	3	2	1	
Q. 17	自分の知識や技能を、その時、その場の状況に応じて生かすことができる	5	4	3	2	1	⑨
Q. 18	さまざまな価値観や文化を尊重する態度で行動できる	5	4	3	2	1	
Q. 19	必要な情報や信頼できる情報を、さまざまな方法で集めることができる	5	4	3	2	1	⑩
Q. 20	集めた情報を必要に応じ取捨選択し、使いやすく整理することができる	5	4	3	2	1	
Q. 21	課題を抽出し、解決のために原因を分析することができる	5	4	3	2	1	⑪
Q. 22	課題解決のためのプランを作り、計画を立てて実行することができる	5	4	3	2	1	
Q. 23	よりよい問題解決のために、かたよった判断をしないで、公正な目で見るることができる	5	4	3	2	1	⑫
Q. 24	問題解決のために、筋道を立てて、論理的に考えることができる	5	4	3	2	1	
Q. 25	自分の考えをわかりやすくレポート(資料)で説明することができる	5	4	3	2	1	⑬
Q. 26	話し方や表現の仕方を工夫して、相手にわかりやすく説明することができる	5	4	3	2	1	
Q. 27	チームの目標実現のために、自分の役割や責任を理解することができる	5	4	3	2	1	⑭
Q. 28	状況に応じてリーダー的役割やメンバー的役割を柔軟に発揮することができる	5	4	3	2	1	
Q. 29	他者の話を最後までしっかり聴き、その内容の要点をとらえることができる	5	4	3	2	1	⑮
Q. 30	人の意見を聞き、整理したり方向づけたりしながら、理論を発展させることができる	5	4	3	2	1	

(2) 上から2段ずつ、○で囲った数字を足し算します

2007年4月新2年生を  
対象に実施した  
キャリアプログラムで  
使用したベンチマー  
クセルフチェック票



2009年から  
eポートフォリオに搭載





# eポートフォリオのBMチェック画面

ベンチマーク

## 2015春リフレクション

受付期間: 2015-03-25~2015-04-30

メッセージ:

前回のリフレクション「2014秋リフレクション」の登録内容を表示しています。

このメッセージが表示されている間は、今回のリフレクションとしては保存されておきませんので、下記ベンチマーク入力後【登録】をクリックして保存してください。



2012年度末から  
ルーブリック形式



現行

設問

### Q1-1知的好奇心

- レベル4: 修得した知識・技能を社会でどのように活用できるかについて、主体的に関心や意欲を持つことができる
- レベル3: 修得した知識・技能と社会の現象を関連づけて、新たな疑問や関心について積極的に学ぶ意欲を持つことができる
- レベル2: 知りえた内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる
- レベル1: 社会の現象や授業で学ぶことに関心を持つことができる
- レベル0: レベル1に至っていない
- 保留

### Q1-2自律性

# 学生自身の成長を実感・説明できるために

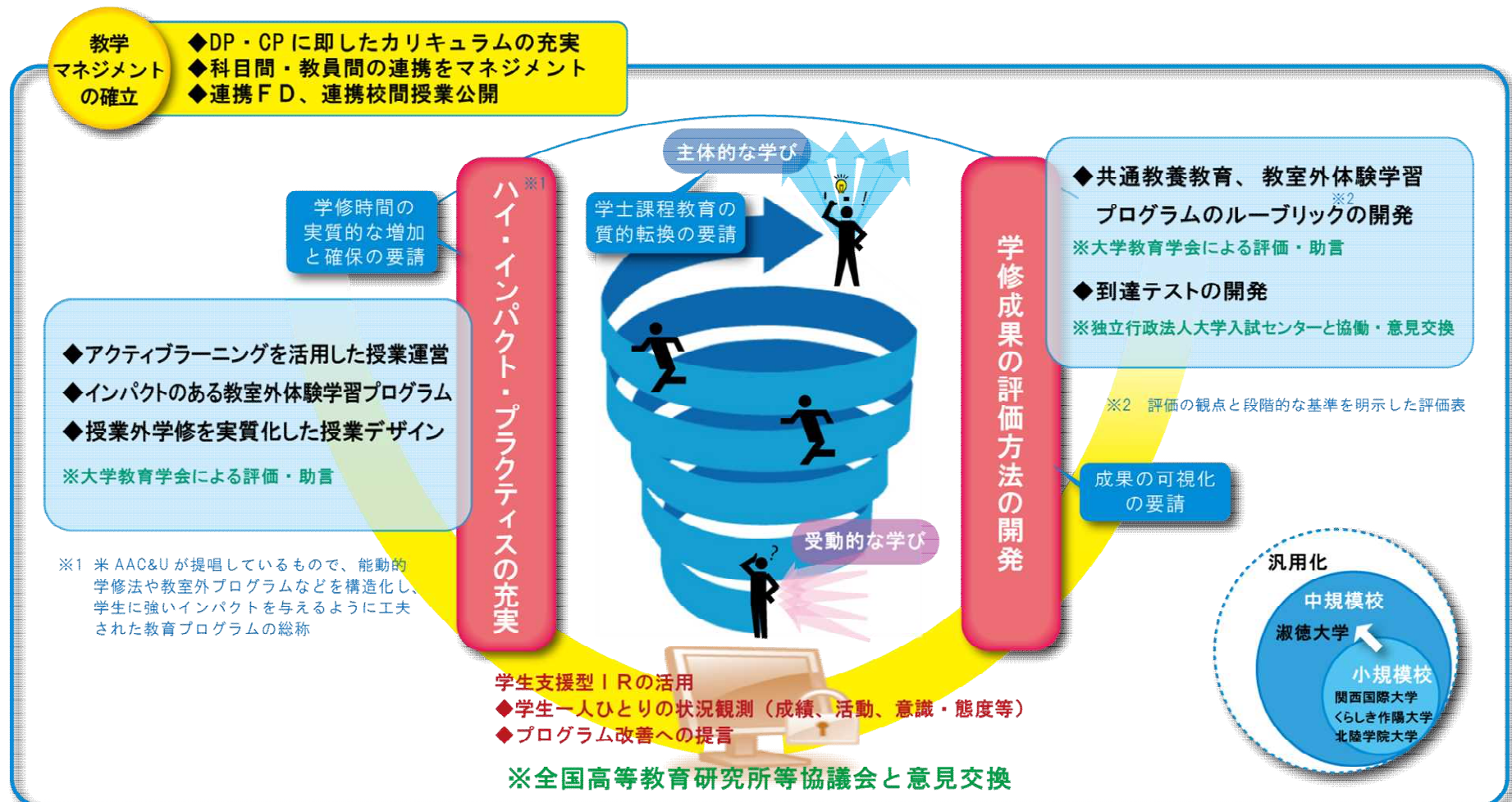
- ルーブリックの開発・活用
  - 学生支援型IRを活用した分析データに基づく施策
  - IR等方法論改善に向けての一般社団法人化
  - **リフレクション・ディ**の強化
- +
- グローバルスタディやコミュニティスタディの強化(経験の“外化”やふりかえりの質的向上)
  - 学生自身に“評価”の重要性を理解させた上で“自己評価力”を高めるための**新科目「評価と実践」**
  - 学生自身が**能動的・体系的に、学びのつながりを考え計画づくりする「ラーニングルートマップ」**の試み

取組名称：主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築

取組大学：関西国際大学（代表校）、淑徳大学、北陸学院大学、くらしき作陽大学

主体的に考え行動できる力を持ち、予測困難な時代に対応できる人材育成の要請を受けて、以下の取組を実施する。

- (1) アクティブラーニング(能動的学修)及びインパクトのある教室外体験学習プログラムなど、学生が主体的に学ぶ教育方法を充実。
  - (2) 学修成果を可視化するため、ルーブリック及び到達テストを開発。
  - (3) 全学的な教学マネジメントのもと、カリキュラムを見直し、科目間・教員間連携を充実して組織的教育を確立。
- さらに、学生支援型IRを用いて学生データを蓄積し、本取組の評価・改善を行う。



# アセスメントの基準と方法

- 1) アセスメントの前提は測定可能な目標設定
- 2) 評価方法は**直接**と**間接**を組み合わせることが重要
- 3) 私学の独自性を考えれば、**全国標準**だけを導入することだけが可視化か？
- 4) **独自性**を活かすにはルーブリックを活用した多面的評価の可能性
- 5) 重層的（評価の位相ごと）で、多面的（複数の評価尺度や方法を組み合わせる）な評価が  
Cf. アメリカの大学における学修成果の評価

# 必要条件としての“教育力の可視化”

- 1) 3つのポリシーの実施状況と学修成果の“見える化”と多元的・重層的評価への改善
- 2) AP事業を受けてのKUIS学修ベンチマークの測定尺度（中項目）の見直し  
～産業界とのtunning～
- 3) 専門知識の活用能力をいかに測定していくか  
到達確認試験の質的転換が不可欠  
cf. 高大接続改革による初中等教育の改革
- 4) 教育方法AL、PBL、ICT活用のさらなる改善  
教育方法の導入率<学修成果への効果  
CPの検証とそれを受けた改善

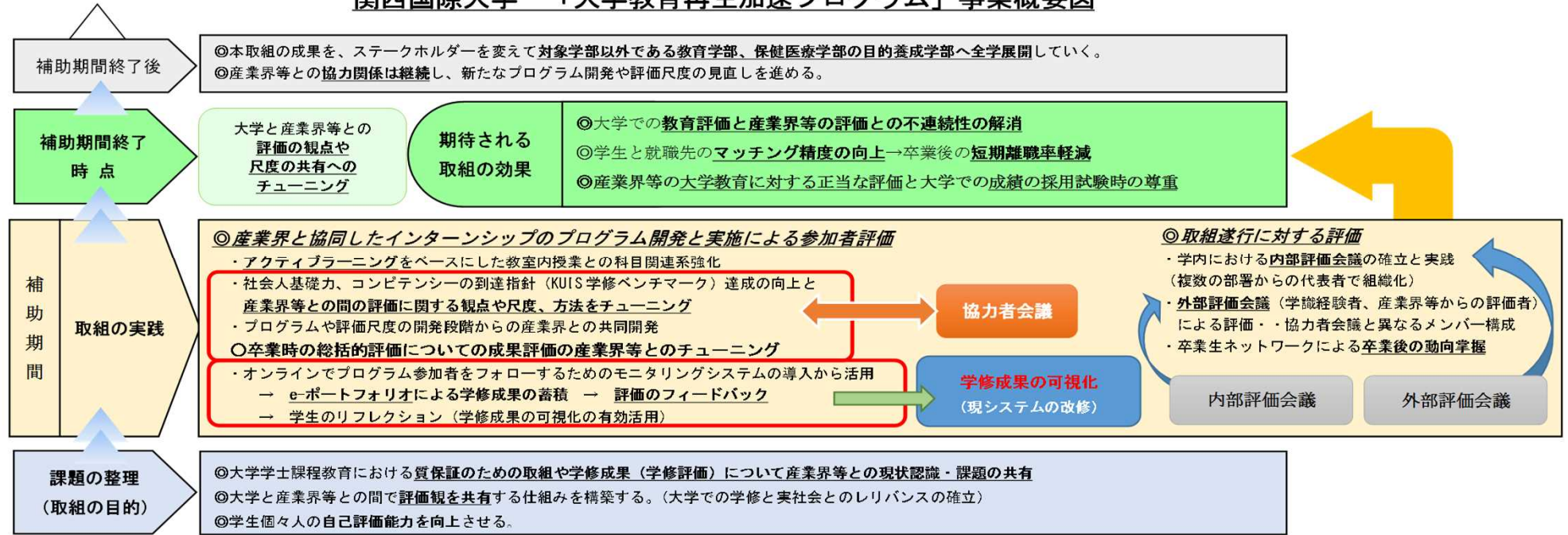
大学等名：関西国際大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

本事業は、インターンシップを糸口として、大学と産業界等との評価の観点と尺度の共有を具現化することを目的とし、産業界等での構成員（社員）評価と大学の評価との関連性や評価方法について、いくつかの事業所と連携してすり合わせていく。その結果を教育プログラムに反映させていくサイクルを繰り返すことで学修成果の可視化を進め、学生個々人の自己評価能力の向上も目指すものである。

<背景>大学の評価は産業界等には信頼されておらず、評価の観点と尺度とが共有されていないという問題がある。

関西国際大学 「大学教育再生加速プログラム」事業概要図



【事業の成果】	25年度	27年度(目標値)	29年度(目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	98.9%	99%以上	99%以上
学生の授業外学修時間	8.75時間	10時間	15時間
インターンシップ受入企業数	46社	60社	80社
インターンシップ・ルーブリックの作成と活用	実績なし	ルーブリックの作成 人間科学部での展開	全学的なルーブリック の提示・展開
Eポートフォリオ記事投稿数	1.8件/人	10件/人	20件/人

<事業実施による大学改革の加速効果>

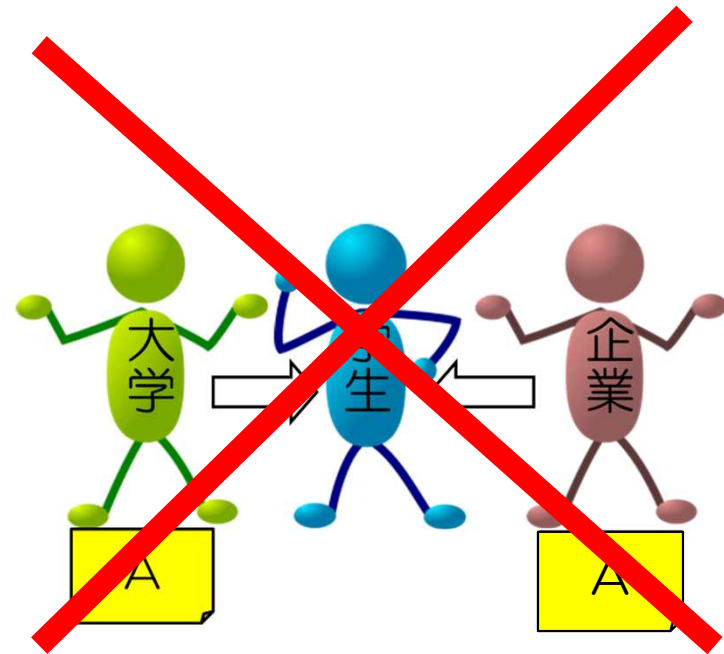
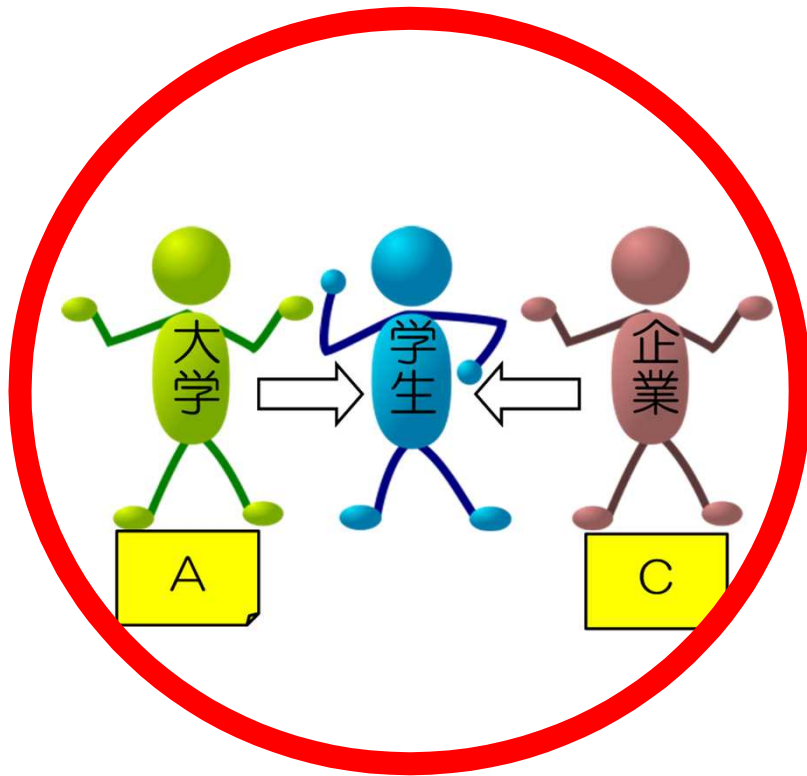
- ①大学での教育評価と産業界等の評価との不連続性の解消
- ②学生と就職先のマッチング精度の向上による離職率軽減
- ③産業界等の大学教育に対する正当評価等

<事業実施による大学全体への影響>

本取組の成果を、対象学部以外である教育学部、保健医療学部の目的養成学部へ全学展開していく

# 企業と大学

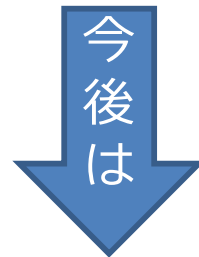
## 評価のкалиブレーションのイメージ



※カリブレーション=評価のすり合わせでは、どちらかの評価に合わせるのではなく、評価の観点の相違を認め合うことである。

# AP型インターンシップの定義

- ① **ルーブリック**を使用して評価する。
- ② “リフレクションカレッジ” を使った期間中の**モニタリング**が可能である。
- ③ 企業側と大学との評価を**チューニング**する：  
すり合わせる



- ④ 企業のニーズを取り入れた**問題解決型**の要素をプラスしていく。



# インターンシップ ループリック

- 2016年度は、「**KUIS学修ベンチマーク**」をインターンシップループリックとして活用。
- 2017年度には、インターンシップループリックに発展させる

KUIS学修ベンチマーク(インターンシップ評価表)

学生氏名:		実習先名:				ご担当者様:		
大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	どの場面(行動)により、左記の評価となりましたか
自律できる人間になる	自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律し、自分の行動には責任が伴うことを自覚できる	□知的好奇心	新しい知識や技能、社会におけるさまざまな現象や問題を学ぶことに、自ら関心や意欲をもつことができる	□修得した知識・技能を社会でどのように活用できるかについて、主体的に関心や意欲を持つことができる	□修得した知識・技能と社会の現象を関連づけて、新たな疑問や関心について積極的に学ぶ意欲を持つことができる	□知得た内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる	□社会の現象や授業で学ぶことに関心を持つことができる	
		□自律性	自分の行動には責任が伴うことを自覚し、自らを律しつつ設定した目標の実現に向けて積極的に取り組み、最後までやりとげることができる	□自分の行動には責任が伴うことを理解し、自分の目標の実現に向けて積極的・主体的に取り組み、やり逃げられるまで継続することができる	□自らの責任を自覚しつつ設定した目標の実現に向けて継続的に取り組むことができる	□与えられた課題や自分で設定した目標について、自分なりにやり遂げる方法を見つけて取り組むことができる	□与えられた課題の実現に向けて、自分の責任を理解して取り組むことができる	
社会に貢献できる人間になる	社会の決まりごとを大切に考え、社会や他者のために勇気をもって行動し、貢献することができる	□規範遵守	複数の人々と暮らす社会の決まりごとを尊重し、その背景や意義を理解して、協力的に行動することができる	□社会のマナーや集団でのルールを尊重していくために、自ら率先して、社会から信頼される良識ある行動をとることができる	□状況に応じて必要なマナーや集団でのルールを考え、進んで守り、協力的に行動することができる	□社会のマナーや集団でのルールの背景や意義を理解した上で、守ることができる	□社会のマナーや集団でのルールを守る	
		□社会的能動性	自分の役割や責任を理解し、他者との積極的な協働や交流を通して、社会のために行動することができる	□社会が求めていることを理解し、他者との協働のもと、社会のために自ら活動を組織して行動することができる	□社会が求めていることに関心を示し、社会のために他者と協働しながら行動することができる	□集団の中で、他のメンバーと協働しながら行動することができる	□集団の中で、自分の果たすべき役割や責任を考えながら行動することができる	
心豊かな世界市民になる	多様な世界の自分や自分たちの社会について理解を深め、他者に対する共感の感覚や態度を身につけ、世界市民として行動できる。	□多様性理解	自分や、自分と同じ社会的・文化的背景を有する人々、異なる社会的・文化的背景を持つ人々、異なる社会的・文化的背景を持つ人々がいることを理解し、多様な世界や社会を大切に考え、柔軟に行動することができる	□自分とは異なる価値観や社会的・文化的背景を尊重し、交流することができる	□自分とは異なる価値観や社会的・文化的背景を尊重し、交流することができる	□自分の価値観と異なる価値観や社会的・文化的背景を持つ人々に関心をもち、違いを受け入れることができる	□自分とは異なる価値観や社会的・文化的背景を持つ人々を理解することができる	
		□共感的態度	他者と接するときに、感覚や感情を働かし、相手の立場に立って考え、共感を示すことができる	□相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すときに、その人が必要としていることに配慮した行動を取ることができる	□相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すことができる	□相手の感情、思考、行動を理解するに、自棄を合わせるなど、向き合う姿勢をとることができる		
問題解決能力を身につける	状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題を解決したり、解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる	□情報収集・活用能力	必要な情報や信頼できる情報をさまざまな方法を使って集め、解決の視点から必要な情報を取捨選択し、整理・保存しながら活用することができる	□多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を的確に選択して収集し、問題発見や解決のアイデアを構想することに活用することができる	□多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を収集し、要点を整理・保存しながら、自分の主張やアイデアを裏づけることができる	□多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を集め、要点を整理してから保存することができる	□多様な情報源から必要な情報を集めることができる	
		□問題発見力	現状から何が問題であるかを発見し、その解決に向けた課題を考えることができる	□今後生じる可能性のある未知なる問題を予測し、これまでの問題解決における手法を参考にして、解決に向けた課題を提示することができる	□現状を確認し、今後生じる問題を積極的に見つけ、解決のための課題を提示することができる	□現状を確認し、生じている問題に気づき、解決のための課題を考えることができる	□現状にある問題に気づくことができる。	
		□論理的思考/判断力	偏った判断をすることなく、論理的に考えることができる	□論証に基づいて論理的に導き出した意見や結論についてさまざまな視点から検証を行うことができる	□論証に基づいて論理的な意見や結論を導き出すことができる	□客観的な事実から、問題の原因について論理的に仮説を立てることができる	□他者の意見や物事を客観的な視点で捉え、事実と意見を区別することができる	
コミュニケーション能力を身につける	社会生活を営む上で、他人の思いや考えを受け止め、理解するとともに、自分の思いや考えを的確に表現し、意見を交わすことができる	□自己表現力	言語的及び非言語的な表現方法を工夫しながら、自分の思いや考えをわかりやすく効果的に表すことができる	□言語的・非言語的な表現方法を活用して自分の思いや考えをわかりやすく表現したり、相手からの質問や意見に対して臨機応変に対応することができる	□言語的・非言語的な表現方法を活用して、内容の構成を工夫しながら自分の思いや考えをわかりやすく表現することができる	□言語的な表現だけでなく、非言語的な表現方法も活用して、時間などの決められた条件の中で、自分の思いや考えを表現することができる	□時間などの決められた条件の中で、自分の思いや考えを表現することができる	
		□意見交換・調整力	他者の発言を傾聴し、その内容の要点をとり、自分の疑問や主張をまとめて、他者と意見の交換や調整をすることができる	□自分の意見や考えと他者の主張を調整して互いに納得できる結論を導き出した上で、新たな問題や発展的な課題を提起することができる	□他者の主張を理解して、自分の意見や考えと他者の意見を調整して、互いに納得できる結論を得ることができる	□他者の発言の論点を理解して、それに対する自分の意見を示すことができる	□議論や話し合いなどにおいて、自分の意見を示すことができる	

# インターンシップループリックの構築（1）

ベンチマーク	インターンシップループリック
自律性	能動性
規範遵守	規律性
社会的能動性	多様性理解
多様性理解	柔軟性
共感的態度	情報収集・活用力
知的好奇心	問題発見・解決力
情報収集・活用力	論理的思考/判断力
問題発見力	計画・実行力
論理的思考/判断力	自己表現力
自己表現力	意見交換・調整力
意見交換・調整力	
計画・実行力	

# インターンシップルーブリックの構築

関西国際大学 インターンシップルーブリック

項目名	目的の説明	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	担当教員
□能力性	...	...	...	...	...	
□規律性	...	...	...	...	...	
□多様性理解	...	...	...	...	...	
□柔軟性	...	...	...	...	...	
□情報収集・活用能力	...	...	...	...	...	
□問題発見・解決能力	...	...	...	...	...	
□論理的思考・判断力	...	...	...	...	...	
□計画・実行力	...	...	...	...	...	
□自己表現力	...	...	...	...	...	
□意見交換・調整力	...	...	...	...	...	

担当教員も明記

具体的な手順を示す  
※担当教員の関わりも記す

【コメント欄】を追加

＜評価の手順＞  
インターンシップの開始前、担当教員が、事前に目的、項目や  
観点、項目別のコメントを入れている。インターンシップが  
完了後、担当教員は、インターンシップの目的、項目や  
観点、項目別のコメントを入れている。インターンシップが  
完了後、担当教員は、インターンシップの目的、項目や  
観点、項目別のコメントを入れている。...

【コメント欄】

ご清聴ありがとうございました



関西国際大学ホームページ <http://www.kuins.ac.jp/>

 <https://www.facebook.com/kuis.maps>

入学から卒業までの評価計画

履修科目	入学前	1年				2年				3年				4年		卒業ガイダンス				
		春・夏	リフレクション デイ	秋・冬	リフレクション デイ	春・夏	リフレクション デイ	秋・冬	リフレクション デイ	春・夏	リフレクション デイ	秋・冬	リフレクション デイ	春・夏	リフレクション デイ		秋・冬			
		総括テスト レポート等 × 科目数		総括テスト レポート等 × 科目数		総括テスト レポート等 × 科目数		総括テスト レポート等 × 科目数		総括テスト レポート等 × 科目数		総括テスト レポート等 × 科目数		総括テスト レポート等 × 科目数		卒業研究(卒業論文)		卒業研究(卒業論文)		
eポートフォリオ			ふりかえり 目標設定		ふりかえり 目標設定		ふりかえり 目標設定		ふりかえり 目標設定		ふりかえり 目標設定		ふりかえり 目標設定		ふりかえり 目標設定					
学科のDP(KUIS学 修ベンチマーク)			●		●		●		●		●		●		●					
学習成果物による 評価		<p>学生は、毎学期開始直前に、リフレクションデイにおいて、前学期のふりかえりと今学期の目標設定を行う。ふりかえりは、返却された科目のテストやレポート(ルーブリック)等を使って自分の学修成果の修得を確認する。特にベンチマークについては、成果物とともにeポートフォリオに記載。目標設定は今学期に伸ばさせたいベンチマーク項目を指定し、どのように伸ばすのかをカリキュラムマップ及びシラバスを参照して確認し、eポートフォリオに記載。</p> <p>科目担当者は、科目のテストや、レポート・プレゼン等のルーブリック評価で、学修成果を引き出しているかを確認。授業アンケート(中間・期末)も活用</p>														卒業論文の評価 ルーブリックにより 評価	ベンチマークの 達成状況 (department level = sampling)  ベンチマークに 関する学生の自 己評価の集計			
学修行動調査とテス トによる評価		大学への適応に関する 調査 6月 (sensus)  入学2か月後の適応など の心理的状況に関する 状況の把握		大学への適応に関する 調査 10月 (sensus)  学習経験、学修成果の 獲得状況の把握		大学への適応に関する 調査 6月 (sensus)  適応などの心理的状況 に関する状況の把握。1 年次との比較		大学への適応に関する 調査 10月 (sensus)  学習経験、学修成果の 獲得状況の把握。1年次 との比較		到達確認 試験(学科 別) 専門基礎 知識の定 着に関する		大学への適応に関する 調査 6月 (sensus)  適応などの心理的状況 に関する状況の把握。 1,2年次との比較		大学への適応に関する 調査 10月 (sensus)  学習経験、学修成果の 獲得状況の把握。就職 活動直前の状況を把握		基礎能力 検査(言語 運用・ 数理分 析)		進路と学生生活に 関する調査 10月 (sensus)  卒業時の 学修成果 の達成状		進路と学生生活に 関する調査 2 月 (sensus)  卒業時の学修成 果の達成状況を 把握。
その他の評価ツ ール		基礎学力診断 テスト(日本語 運用能力・論 理思考) (Warming-up)	英語プレースメントテスト (FMW)  ICTプレースメントテスト (FMW)	学生生活実態・意識 調査(無記名・ sensus)  学生生活に関する状 況及び大学内の環 境・各種サービスの 利用と満足度につ いて調査		基礎学 力診断 テスト	学生生活実態・意識 調査(無記名・ sensus)		基礎学 力診断 テ スト	学生生活実態・意識 調査(無記名・ sensus)		基礎学 力診断 テ スト	学生生活実態・意識 調査(無記名・ sensus)		基礎学 力診断 テ スト	学生生活実態・意識 調査(無記名・ sensus)		基礎学 力診断 テ スト	学生生活実態・意識 調査(無記名・ sensus)	